

団体名： 吉井町養豚組合

代表者： 杉 正廣

所在地： 福岡県うきは市吉井町

〔ポイント〕

市内養豚農家 5 戸で構成。消費者ニーズに応えるため地域ブランド豚を軸に地域に密着した地産地消を目指し、特色ある生産地づくり、販売体制づくり、食育活動への積極的な取り組みを実施してきた。その結果、学校給食への食材の納入、地元スーパーとの取引等を通じて地元消費者層を開拓した。

【活動の内容】

1. 地域ブランドの確立

平成 14 年に「耳納あかぶた 203」（年間出荷頭数約 50 頭。開始（A コープ、F コープ、一般スーパー等で販売。年間約 1,800 頭）

2. ブランド化した豚肉の学校給食食材としての納入

地域ブランド豚「耳納あかぶた 203」を販売開始、翌年には「耳納いっーとん」販売開始した。高品質の豚肉を安定的に確保し、消費者に供給するためには、一定の生産量と消費需要の確保が大きな課題であり、地域ブランド豚の知名度アップと品質の良い豚肉だということを消費者に理解してもらう必要があった。

3. 食育活動への取り組みの 3 つのステップを設定。

「地元産の食材を子供たちに食べさせたい。安全で安心できる食材を食べさせたい。生命に対する感謝の気持ちを育てさせたい」とのもとに、平成 15 年より旧吉井町内 4 小学校へ「耳納いっーとん」納入開始。現在では年間約 2,000 kg の「耳納いっーとん」をうきは市内の学校給食に提供している。

平成 15 年より、小学校教育における食育授業の講師としての派遣。保護者を招いた調理実習会、親子での給食試食会、豚舎見学会、手作りウイナー教室等を開催。

これらの活動が認められ「2005 食育コンクール in ふくおか」において J A 福岡県青年部協議会委員長賞を受賞。

地域ブランド豚の確立という経営戦略と、学校給食用に食材を安く提供し、その学校において食育活動を行ってきた吉井町養豚組合は全国的にも珍しい事例。

【活動の成果】

1. 飲食店などで業務用に使用されている「耳納あかぶた 203」に対して「耳納いっーとん」を一般向けに販売しようと販路を探るなかで組合員は「歯の抜け替わる低学年の子どもたちにも、やわらかくておいしい肉を食べさせたい」「地産地消で地域の活性化につなげたい」「地元産のブランド肉を子どもたちに食べてほしい」との思いから学校給食への納入に取り組んだ。そんな組合員の思いは、平成 15 年 9 月から吉井町内 4 小学校への納入という形で実現。現在はうきは市内の全小学校で「耳納いっーとん」が食べられている。

また、同組合が行ってきた小学校高学年の児童を対象とした食育授業は「養豚に関する講義」「耳納いっーとんを使用した調理実習」「豚舎でのふれあい体験」を 1 セットとして行っている。

また 2004 年、2005 年と食育授業を行なった結果、「子供たちの給食の食べ残しが明らかに減った」と食育授業の効果を挙げている。